総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および 12 月 19 日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」

該当する項目はありません。

１．病院の特色

貴院は、2001 年に開設したのち、2004 年に回復期リハビリテーション病棟 39 床を届出され、その後、病棟変更を行われ、2020 年に回復期リハビリテーション病棟 2 病棟 100 床に再編され運営している。リハビリテーション科専門医 6 名をはじめとして、回復期リハビリテーションに必要な専門職を配置してチーム医療を展開している。国際生活機能分類（ICF）と地域リハビリテーションの考え方を取り入れた病院の理念と基本方針がある。それは職員一人ひとりに徹底され、患者の個別性を重視し、充実したリハビリテーション医療の提供が行われている。同法人の急性期病院や地域の病院との地域連携は強化されている。退院後は、病院からの訪問リハビリテーションや地域の通所リハビリテーション、在宅ケアセンターからの訪問看護・訪問リハビリテーションなどとの連携がとられ、生活自立支援や就労支援が行われている。急性期病院との連携や退院後の生活支援まで、幅広いリハビリテーションニーズに応じられるよう、組織強化が進められている。京都市東山区・南区の地域包括ケアシステム構築のキーとなる病院として、今後のさらなる発展を祈念する。

２．良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院の理念と基本方針が明文化され、職員や利用者に対して周知されている。365 日充実したリハビリテーション・ケアを提供するための各専門職が配置されている。病棟の業務改善や対応・運営ルールなどは「回復期 Cross Functional Team 会議（CFT）」で議論し、「リハビリテーション運営委員会」で方針が決定され、決定事項は職員へ周知されている。安全確保に対しては、医療安全管理委員会の下

に安全管理担当者が定められ、転倒，誤認，行動制限等に関する安全確保体制の手順が整備されている。アクシデント・インシデントについて、レポートのデータの分析は行われている。全体での急変を想定したシミュレーション訓練を実施し、それらの検証を行われることを期待する。電子カルテが運用され、職種毎に適切な評価、データの収集・分析が行われ、病院として活用されている。療養環境については、車椅子などの点検、防犯体制、トイレ・浴室の安全性への配慮がなされている。病院の全体横断的研修は各委員会が開催しているが、各委員会の横のつながりを持った年間計画を策定されることを期待する。急性期病院との連携は、地域連携パスが活用されている。在宅復帰後のリハビリテーション・ケア継続へ向けて、地域の連携機関との情報提供も行われている。

３．回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

回復期リハビリテーション病棟では、リハビリテーション科専門医 4 名と専門の異なる医師が、医師間でそれぞれの知識・技術を保管し、入院患者の診療にあたっている。医師はチームの統括や指導、患者・家族への説明や指導の役割を果たしている。看護師・看護補助者は、役割分担を明確にして日常業務を遂行している。入院時には ICF を用いてアセスメントを行い、協働して看護計画を立案し、定期的なカンファレンスで評価や目標、介入計画を更新している。新人・継続教育は、クリニカルラダーに沿って段階的な教育体制がある。教育システムに研究促進と発表を導入されること期待する。療法士は標準的な評価を行い、目標や計画を立案し介入を行っている。療法士の早出・遅出による実際のケアの介入や、入浴、移動など他職種と協働し ADL の向上を図っている。質の向上への取り組みは年別目標をもとに実施している。社会福祉士は、患者・家族の要望や意向を確認しつつ退院支援を行い、退院後のリハケアの継続に取り組んでいる。リハビリテーション総合実施計画書において、社会福祉士が担当する箇所の不記載の部分が散見され、検討されるとさらに良い。また、教育体制の整備が望まれる。管理栄養士は、標準的な栄養スクリーニングと評価、初回カンファレンスへの参加、ミールラウンド、NST 回診などを行い、個別的で効率的な栄養管理を行っている。

４．チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院日に標準化された評価が多職種により実施され、生活機能、ADL の課題が抽出されている。入院 1 週間以内に初期カンファレンスを実施し、リハビリテーション総合実施計画書が作成され、医師により患者・家族に説明されている。定期カンファレンスは 1 か月に 1 回実施され、定期的に課題の評価・検討が行われ、その後、患者・家族への説明会にて医師により患者・家族へ説明されている。１日平均 6 単位の疾患別リハビリテーションが実施され、機能回復のための療法が実施されている。個別リハビリテーション以外にも患者の活動性を高めるレクリエーションなどが多職種で協力して行われており、余暇時間の活動性向上のための支援も行われている。定期カンファレンスにおいて、各専門職が専門性を活かして、評価・目標設定、介入を行うための取り組みが行われている。患者固有の問題に対しては、

嚥下・転倒・認知などの各種カンファレンスなどが適宜開催され対応が行われている。退院支援や家屋調査が行われ、退院時に見込まれる心身機能、ADL、IADL を踏まえた療養指導、環境整備、介護サービスなどが提案されている。

1　良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅱ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅱ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅱ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅱ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅱ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

2　回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅱ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.O	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅲ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅲ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3　チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅱ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅲ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ